

## 田作りで五年生のみなさんに一番お伝えしたかったこと

### 谷津田プレーランドプロジェクト 大谷 祥

昨年11月28日、29日、30日に大椎小学校にて、また、今年1月13日にあすみ小学校にて、田んぼの感謝の会が開かれました。いずれも五年生のみなさんの笑顔がたくさん見られたすばらしい会でした。その時に少しお話をさせていただきましたことを、ここに記します。

### 大椎っ子田んぼ第五期生のみなさんと、あすみっ子田んぼ第二期生のみなさんへ

今日は、おまねきいただきましてまことにありがとうございました。一年間の田作り、たいへんおつかれさまでした。みなさんと一緒に作業できましたこと、とてもうれしかったです。

みなさんにお伝えしたいことがまだまだたくさんあるのですが、今日は時間があまりないので、一つだけ。みなさんには稲刈りなどの田んぼの作業をいろいろ体験していただきましたが、それらを通じてみなさんに一番お伝えしたかったのは、「思いやり」です。

ほとんどのみなさんは田んぼの作業は初めてのことだったと思います。それまでは、ふだん食べているお米がどこでどんなふうにも育ったのか、あまりごそんじではなかったのではないかと思います。でも田んぼでの作業をたいけんしたことで、田んぼがどんなところで、田んぼにはどんな生き物が



いて、稲がどんなふうな形をしていて、どんなふうにも育って、どんなふうにもお米ができるのか、お分かりになりましたね。ということは、田んぼや稲や生きものたちのことを、よりくわしく知ったということです。

脱穀の時にみなさんにお伝えしました。「地面に落ちた、このひとつぶひとつぶの粃はまだ生きています。来年の春に田んぼにまいたら、ちゃんと芽が出ます。生きています命です。みなさんはもしだれかにふまれたらどんな思いがしますか？ いやですよ。ですから粃はふんだりしないで、全部集めてください」と。みなさんは稲のしゅうかくがかんたんではないことをたいけんしましたね。だからお米を大切にしたり、田んぼやお米に感謝できるようになったのではないかと思います。

このように、相手を良く知るといことは、相手を思いやることができるようになる、ということだと思ふのです。相手のことをよく知らないのに、思いやることはむずかしいと思ふます。相手のことをよく知ることが真の思いやりにつながると思ふます。

もしお友達とけんかしてしまったり、お父さんやお母さんとけんかしてしまったり、先生と意見が合わなかったりした時は、どうぞ相手とよく話し合ってください。けんかしたり意見が合わなかったりするの、相手が自分とはちがう考え方をしている場合が多いです。ですから、そのちがいを知ろうとしてみてください。相手がどういふ環境で生まれ育ったか、どうして自分とはちがう考えを持つようになったのか、そのちがいが分かれば、解決に近づけると思ふます。

お米ひとつぶひとつぶや、その他の食べ物に感謝をあらわす言葉が「いただきます」と「ごちそうさま」です。みなさんは毎日、命をいただいていますね。ですから、きちんと「いただきます」と「ごちそうさま」を言いましょう。言う時には、心の中で「ありがとう」の気持ちを持ちましょう。田んぼや稲、そして田んぼの生き物たちも、たくさん作業してくださったみなさんに感謝していると思います。

みなさんには田作りの中で、いろいろな作業方法や道具の使い方、漢字などをお伝えしました。もしそれらをわすれてしまっても、田んぼや稲や生きもの達ににたいする思いやりは、どうぞわすれないでください。みなさんが大人になった時に「五年生のころに田作りしたっけ」と思い出していただければ、田んぼや生きもの達もうれしいと思います。

みなさんにお伝えしたいことはまだまだたくさんあるのですが、とりあえず以上をもちまして、今年度の田作り授業を終わります。一年間、どうもありがとうございました。

…今年度の作業は終わりですが、田作りは毎年続きます。よろしければいつでも遊びにいらしてくださいね！



## 谷津田いきもの図鑑 No. 53 アカハラ・シロハラ

大きさも頭から背中にかけての色もとてもよく似たこの2種類の野鳥、大きな違いはお腹の色です。その名のとおりアカハラはお腹が茶色、シロハラは白なので簡単に見分けられそうですが、警戒心がとても強い鳥なので見かけるのはだいたい飛び去る姿で、その場合、なかなかお腹の色を確認できません。しかも、キョッキョッキョッキョという鳴き声もそっくり、暮らしている場所まで同じなので、フィールドノートに「アカ or シロハラ」と書くことが多い鳥です。谷津では斜面林にすることが多く、地面に降りて落ち葉をひっくり返して餌を探している姿を見かけます。冬枯れの林でカサッ、カサッという音がしたらたぶんシロハラかアカハラです。アシ原になった休耕地で過ごすこともあり、人が近づくと慌てて林の中に逃げていきます。また、公園や人家に庭にやってきて木の実を食べることもあります。畑など見通しのよい開けた場所は好みでないようです。千葉ではいずれも冬鳥で、アカハラは夏場、標高の高い高原や北国で子育てをし、キョロンキョロン、チリというとてもきれいな声でさえずります。一方のシロハラは中国など大陸からはるばる渡ってくる野鳥です。 (高山邦明)



地面に降りて餌を探すアカハラ（左）とシロハラ（右）（撮影：網代春男）



# 里山たんけんレポート

## 第145回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2012年2月5日(日) くもり

厳しい寒さが続いてニホンアカガエルの産卵は始まっていません。冬の恒例バードウォッチングで谷津を一巡しました。集合場所からは田の畔で採餌するカシラダカの小群が見られ、葦の中の柳の枝ではホオジロが囀っていました。山からはシジュウカラの囀りが聞こえました。次いでモズが単独生活を解消してペアになっているのが見られました。鳥の世界の春を感じさせるスタートでした。歩む先々からアオジが飛び出しますがじっと留まってくれないのでなかなか双眼鏡で捕らえられません。林縁や葦のブッシュの中からはウグイスの地鳴きが聞こえます。葦のブッシュではエナガ、メジロ、シジュウカラの混群のにぎやかな声も聞こえました。オオタカの飛翔を見た方もいました。下流の沼の所から対岸を折り返しましたがそこではカケスが鳴きながら飛び交っていました。シロハラの声はありましたが、ツグミとは出会えませんでした。今冬はツグミの渡りが異常で極端に少ないようです。ヤマユガの繭が3つついている木やオオミノガの蓑がたくさんついているヤナギの木があったりしました。スタート地点に戻った所ではセグロセキレイが2羽飛び出し、隣の田にはアオサギがいました。

ハンターが3組入っていたこともあるかも知れませんが総体的に鳥が少ないようでした。今日は初参加の水生昆虫に興味を持っている6歳のお子さんが観察会終了後小川やU字溝に網を入れカゲロウの仲間の幼虫やスジエビ、ヨコエビの仲間などを捕って楽しんでいました。千葉高の生物部の生徒はいつものように水質検査とメダカの調査をしました。タモロコ、ドジョウが観察されました。

(参加者 大人13名、高校生5名、子ども5名； 報告：網代春男)

## 第130回 下大和田 YPP「アカガエルの産卵調査と林の手入れ」

2012年2月18日(土) 晴れ

冬晴れに恵まれたのですが、風が強くふるえ上がる寒さの中、谷津田をめぐるニホンアカガエルの産卵状況を調べました。YPPの田んぼからはじめ、地元の方の田んぼをひと通り見て歩き、かたまって生みつけられている卵を丁寧に一つ一つ確かめながら、卵塊の数と場所を記録しました。今年最初の産卵は2月に入ってはじめて天気が崩れた6~7日と思われ、例年と比べると寒さの影響で産卵開始が1週間くらい遅れているようです。今回の調査でも例年の同じ時期と比べると卵塊数が少なめでしたが、最初に生みつけられた卵のうち、湧水がある一番暖かな田んぼにある卵は早くも孵化が始まっていて、まだくびれない小さな棒のようなオタマジャクシが卵塊から出て泥の表面にいました。

午後は林の竹など不要な植物を切る作業をしました。林床の日当たりや風通しがとてもよくなり、昔ながらの手入れが行き届いた雑木林の植物が復活することを期待しています。

(参加者：大人12名、子ども7名；報告：高山邦明)



稲株の間に生みつけられた卵塊 (撮影：高山邦明)

## 第75回 小山町 YPP「自然観察会」

2012年2月19日(日) くもり

穏やかな晴天のもと、YPPとしては久しぶりにゆっくり自然観察をしました。枝谷津に入っていくと、ヒッヒッヒッという鳥の音が聞こえてきて、低い枝と地面の間を行き来しているジョウビタキのメスを見つけました。望遠鏡でそのつぶらな目を見て、みんな感激。静かな谷津ではアオジやカシラダカの地鳴きやコゲラが木をたたく音などがよく聞こえ、それを手がかりに鳥たちの姿を探しました。高い木の梢でさえずるオレンジ色が目立つヤマガラも望遠鏡で観察できました。田んぼではニホンアカガエルの卵塊を探しました。下大和田同様に小山でも卵塊は少なく、今年は産卵が遅れているようですが、去年休耕田を起こして作った地元の小学校の田んぼにアカガエルがさっそく産卵してくれていたのはうれしい記録です。日が当たらない谷津の南側は昼になっても氷や霜柱で覆われていて、春はまだまだ先という感じでした。



みんなでアカガエルの卵塊数をかぞえました (撮影：高山邦明)

(参加者：大人6名、小学生2名；報告：高山邦明)

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 2月10日 ニホンアカガエルの産卵をはじめて確認。2/6-7に産卵したものと思われる(齊藤・稲富)。  
2月15日 ニホンアカガエルの新しい卵を確認。2/14ごろ産卵したものと思われる(松下)。  
2月19日 田んぼにツグミの姿を見かける。今年としては珍しい(高山)。  
2月23日 夜の谷津でニホンアカガエルが水路・田んぼに出ている(網代・稲富・加藤・齊藤・高山)。

### 下大和田

- 2月8日 ニホンアカガエルの産卵をはじめて確認。2/6-7に産卵したものと思われる(網代)。  
2月11日 モズがほかの鳥の鳴き真似をしていた。カップルになっているモズもいた(高山)。  
2月26日 2/17のYPPの時と比べ、ニホンアカガエルの卵塊数が増えていたが、例年の同じ時期と比べると少なめ(網代)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼第131回 下大和田 YPP「野草を食べる会」

厳しい寒さの日が続いた今年の冬がようやく終わりを迎え、谷津は本格的な春に向かって一気に季節が進みます。春の恵みの野草をみんなで摘んで、天ぷらやおひたしにさせていただきます。春の味わいを楽しみましょう。

日時: 2012年3月17日(土) 10:00~14:00 小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費: 小学生以上一律500円(食材費を含む特別料金です)、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

## ▼第147回 下大和田 4月の谷津田観察会とごみ拾い

春も本格的な季節です。花々、虫たちも活動を始めました。動植物を観察しながら谷津を巡ります。

日時: 2012年4月1日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

## ▼第76回 小山町 YPP「田んぼの手入れ」

今年の米づくりに備えて冬場の凍結などで崩れた田んぼの畦の補修など手入れをします。

日時: 2012年3月25日(日) 10:00~12:30 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 例年になく厳しい寒さが続いた冬もようやく終わりが近づいてきました。今年は寒さの影響でニホンアカガエルの産卵が記録的に遅く、3月を迎えても例年よりも卵塊数が少ないようです。それなりの数のメスが卵をお腹にかかえて冬眠に入っているのですから、これからまだ産卵があると思われそうですが、もし、これでおしまいだとすると、そもそも親の数が少なかったこととなります。今年の冬はツグミの数が記録的に少なかったのも気がかりの一つです。生物の個体数が年によって大きく変動することはよくあることですが、異常に少ないとやはり心穏やかでないものです。いつものような季節が早く戻ってきてほしいものです。

(高山 邦明)